

語力教育と慶應義塾大学外国 語教育研究センターの使命

外国語教育センター副所長
境 一三

skazumi@hc.cc.keio.ac.jp

メニュー

- ▶ 「語力」とは？
- ▶ EUの言語教育政策
- ▶ 21世紀に必要とされる「語力」
- ▶ 外国語教育研究センターの役割
- ▶ 外国語教育研究センターの研究課題

安西塾長による「語力」

- ▶ 日本語、外国語が話せるだけでなく、物事をはっきりと考えられる力。
- ▶ さまざまな情報の中からしっかりした情報をつかんで、組み合わせ、自分の理念を作って、それをゆるぎなく主張できる力。
- ▶ 外国語そのものを学ぶだけでなく、国語を含めて、言葉をしっかり把握しながら思考の力を鍛えることが大切。
- ▶ 語力教育とは「日本語、外国語を含めて、言葉を明確に運用する思考力を身につけるための教育。」

EUの言語教育政策

- ▶ Common European Framework of Reference for Languages (2001) に見る言語教育の目的

「異文化を意識した教授法の中心的目標は、学習者が言語と文化に見られる異質性を経験することによってその人格全体を豊かにし、アイデンティティー感覚が好ましい方向に発展するよう手助けすることである。」

EUの言語教育政策

- ▶ 文化面だけでなく、商業や工業の領域でも新しいヨーロッパに適合する言語能力を養成する。
- ▶ 相互理解と寛容性、アイデンティティーと文化的差異を尊重する心を育てる。
- ▶ ヨーロッパの文化生活の豊かさと多様性を維持し、発展させる。
- ▶ ヨーロッパ市民相互のコミュニケーション能力を具体的な成果が出るまでに高める。
- ▶ 必要とするコミュニケーション能力を持たないものを疎外しないこと。

EUにとっての「ことば」とは？

- ▶ 言語能力はEUを可能ならしめる力であることが明確に意識されている。
- ▶ EU各地の独自性を確保しながら、新しいヨーロッパ人としてのアイデンティティを確立し、相互に移動・交流しながら学び・働いていく環境を作ろうとしている。
- ▶ EUでは域内の市民が**母語以外に最低2言語**の使用者であるように教育を行う方針である。
(複言語主義: Plurilingualism)

21世紀に必要とされる「語力」

- ▶ 複言語社会のコミュニケーションを可能にする
{スキル+スキルを超えた力}
 - 論理的思考力
 - アイデンティティー
 - 他(他者、異文化、他言語など)を尊重する態度
 - 開かれた心(常に学ぶ準備)
 - マイノリティーに対する配慮
- ▶ スキルを超えた力 = 文化能力 = 「教養」

外国語教育研究センターの役割

- ▶ 全塾的な外国語**教育政策立案**のための研究と提言
- ▶ 全塾の外国語担当教員の**知恵と経験を集約する場所**作り(データベース)
- ▶ 全塾の外国語担当教員のための**知恵袋**(相談役、FD)
- ▶ **研究と一体となった講座**の設置(高度な講座、目的に特化した講座など)

外国語教育研究センターの研究課題 (私案)

▶ 自律学習と生涯学習

- 知識社会に適応した自律的生涯学習者の養成
- 「学びを学ぶ」

▶ コンテンツ中心の外国語学習

- 「ことばを学ぶ」から「ことばで学ぶ」へ

▶ ICT環境に対応した外国語学習

- 知識社会の標準的環境となったコンピューター・インターネット環境に対応した学習の構築(学びの場 = コミュニケーションの場)

連絡先

- ▶ skazumi@hc.cc.keio.ac.jp
- ▶ www.hc.keio.ac.jp/~skazumi/

ご清聴ありがとうございました。